

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1298700012		
法人名	社会福祉法人希望会		
事業所名	グループホーム希望の里		
所在地	千葉県匝瑳市栢田8645		
自己評価作成日	平成22年2月16日	評価結果市町村受理日	平成22年4月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 日本ビジネスシステム
所在地	千葉県市川市富浜3-8-8
訪問調査日	平成22年3月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域の介護老人福祉施設、グループホーム、居宅介護支援事業所、小規模多機能型居宅介護事業所、同じ法人内のケアハウスと連携をとることで、研修や行事などの充実につなげています。全職員、明るくあたたかな介護に努め、フットマッサージや入浴といった入居者と密に接している時間は、特に和やかにコミュニケーションを図っています。入居者一人一人に対して主治医からの指示に従った適切なケアが提供できるよう工夫した生活記録を作成しています。匝瑳市が運営している訪問看護ステーションと医療連携し、24時間365日適切な健康管理、医療的な支援につなげています。2ヶ月に1回の運営推進会議では、市職員による介護保険のお話、民生委員による地域のお話、ご家族からの意見を定期的に得てサービス向上に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

のどかな田園中にグループホーム希望の里があり、同じ法人が経営するケアハウスと隣接しており、寄り添うように建っている。木の温もり感じられる事業所内は広く、全面がバリアフリーとなっており、ゆっくりと流れる時間が心を落ち着かせてくれる。入居者・家族・職員が一つの家族と考え、家族のあるべき姿を目標にし、その目標に向かって邁進している。地域の介護サービス事業者や医療機関との連携を密に図り、適切なサービスの提供に繋げている。また、小・中学校や住民のボランティアの受け入れも積極的に行っており、幅広い年齢層を対象にした職業体験の場所としての役割も果たしている。地域からの協力を得ることにより、全職員が地域に溶け込んだ社会に貢献することの出来る施設作りを目指している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	☐	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	☐	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	☐	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	☐	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	☐	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	☐	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	☐	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+-) + (Enter+-) です。)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域に根ざした明るい長寿社会作りに努めます」という理念を掲げ、玄関に掲示。地域のボランティアサークルや、学生を受け入れている。	去年の外部評価結果を検討し、地域密着型サービスの理念を新たに付け加えている。理念を明文化し、全職員に配布することにより、地域との協力体制・住民との交流など必要性を再認識し、関係の強化に繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	管理者は地域の自治会役員や地元消防団員をしており希望の里について説明。農家の方から野菜の差入れがある。地域の祭りの参加、スーパーでの買物実施。運営推進会議に民生委員が参加。	散歩や外出の際に、近隣住民と挨拶を交わす関係が築かれている。夏祭り等の地域行事に積極的に参加していると共に、同法人が運営するケアハウスと共同で行われる行事には地域住民を招待しており、地域との交流の機会を設けている。また、小・中学校の職場体験受け入れや地域ボランティアの来訪等が行われており、幅広い世代との交流も行われている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の他法人の介護支援専門員を講師に招き、ホームにて勉強会及び意見交換を実施。まだ始めたばかりですが、当法人職員以外では職員の家族や利用者家族の参加もあります。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月分の活動報告、今後の活動予定を管理者が説明、その後、市役所職員、民生委員、ご家族からの意見、感想、話し合いの時間を設け、得た情報をサービス向上に活かしている	市役所職員・民生委員・家族・職員・管理者等を構成員として、2ヶ月に1回、運営推進会議を開催している。議題として、施設の活動報告や行事案内を行い、施設の理解促進に努めると共に、意見・情報交換を行い、サービスの質の向上に向けた課題の検討に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者や計画作成担当者が定期的に市職員と情報交換を行っている。運営推進会議では取組みを積極的に伝え、年に2回の広報誌は、発行する毎に市役所内にて回覧して頂いている。	日頃の業務における相談や報告等を随時行っており、密に連携を図る関係が築かれている。また、運営推進会議の参加者を通じて、情報交換が行われており、共に、サービスの質の向上に取り組む体制が構築されている。		

[千葉県] グループホーム 希望の里

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所は、毎年、身体拘束に関する説明、資料配布を職員に行っている。玄関の施錠は日中はしていない。夜間は、防犯の為に施錠している。	日中は玄関の施錠を行わず、入居者の自由な生活を支援している。定期的に地域の他事業所から講師を招き、身体拘束についての内部研修等を行っており、身体拘束排除における意義を職員全員が理解・共有している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所は、毎年、高齢者虐待に関する説明、資料配布を職員に行っている。職員は、丁寧な言葉遣いに努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所は、毎年、権利擁護に関する説明、資料配布を職員に行っている。ご家族から希望があった時には、管理者が成年後見制度についてご家族に説明を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、契約書、重要事項説明書について利用者やご家族に管理者から丁寧に説明を行い、疑問点についてもわかりやすくお答えし理解、納得して頂ける様努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	市役所職員の案により、玄関に目安箱を設置している。又、外部評価の際のご家族アンケートの他に、毎年夏にも事業所独自のアンケート用紙を配布し、記入して頂いている。ご意見は、迅速に事業活動に反映している。	家族の面会時や電話連絡時に家族の意見・要望等を確認している。また、運営推進会議・意見箱の設置・家族アンケートの実施等にて、家族の意見・要望を引き出せるよう工夫をしている。挙げた要望等においては、職員に周知していると共に、迅速な対応を心掛け、入居者・家族の意向に添ったサービスの提供に努めている。	

[千葉県] グループホーム 希望の里

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、職員が管理者に気軽に意見や提案をすることができるような雰囲気作りに努めている。また、提案内容は検討し、可能な時は、運営に反映している。	定期的に会議を開催しており、職員の意見・提案を確認する場を設けている。管理者が職員と個別に話をする機会を設け、意見・思いの把握に努めており、労働意欲の向上に繋げている。意見を言いやすい雰囲気作りに努めており、働きやすい職場環境の整備に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、定期的に事業所の運営内容把握に努めている。法人役員19名に他の社会福祉法人理事長や前施設長等もいるので代表者は随時情報交換をし、管理者や職員が向上心を持って働ける環境作りに努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	地域の消防署の救急隊員を講師に招き救命講習を実施、他法人の研修担当講師を招きオムツ交換講習実施。介護福祉士などの資格取得希望者には、必要な受験条件や受験者向け研修の情報を適時提供。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎年、他法人の介護サービス事業所を訪問したり、外部研修の機会を設けたりするなどし交流の場を設けることで、サービスの質の向上に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、管理者や計画作成担当者が利用者と面接を行い、入居後の適切なサービス提供ができるよう現状把握、潜在的ニーズの収集に努めている。安心感を持って頂ける様事業所の説明をわかりやすく行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に、管理者や計画作成担当者がご家族と面接を行い、入居後の適切なサービス提供ができるよう現状把握、潜在的ニーズの収集に努めている。安心感を持って頂ける様事業所の説明をわかりやすく行っている。		

[千葉県] グループホーム 希望の里

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面接では、当事業所のサービスのみならず、他法人の訪問入浴や福祉用具貸与事業所などとの連携も意識した対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人がどのような事に興味関心があるのか意識しながら同じ目線で言葉かけしている。利用者の方からは過去の体験を思い出して色々教えて頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には面会時、又はお手紙にて毎月、利用者の教養娯楽活動や身体状況、医師からの指示、受診状況を報告。ご家族からの御意見があった際にはケアに反映。日々、会話の中で利用者の方のニーズを聞くことを心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	気軽にご家族や友人が来苑できるよう、外出、外泊、面会は自由。そのため、時々、自宅に外出、外泊される利用者もいます。在宅生活時の主治医を、入居後も継続できるよう送迎付き添い支援している。	馴染みの人達の来訪があり、馴染みの人達との関係継続を支援している。また、家族との外出・外泊が自由になっており、家族との関係継続に配慮している。外出は近隣の慣れ親しんだ場所へ出かけることが多く、見慣れた景色や地域住民との交流が地域社会との関係継続に繋がっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	会話は利用者複数と職員で行っています。利用者9名ひとりひとり性格が違うので、食事の席やドライブの同乗者に関してはできるかぎりお互いが快適に生活できるように配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、ご家族から連絡あった際には、適切な対応に努めている。		

[千葉県] グループホーム 希望の里

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	面接時、または入居してから、生活歴や意向を利用者やご家族から何気ない会話の中で伺っている。	契約時に本人・家族から意向・生活歴・身体状況等を確認している。入居後は、日々の生活の中で会話・表情等を観察しながら本人の意向をくみ取り、全職員が入居者本位で検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面接時、または入居生活の中で、生活歴を利用者やご家族から伺い、生活歴シートを作成している。また、入居前の介護支援専門員や介護サービス事業所職員からの情報提供により、必要な情報の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の暮らしの中で心身状態の変化を観察、随時職員間で話し合い、毎月職員会議でも課題を検討。また、訪問看護ステーションの看護師に毎週、助言や指示、医療の視点からの現状分析を説明頂いている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者を中心に、利用者、ご家族、介護職員、看護師、受診時には主治医と話し合いを行うことで、利用者の望む生活を支援できる介護計画の作成に努めている	入居者・家族の意向をもとに、会議にて職員が意見を出し合い、介護計画の作成を行っている。定期的に介護計画の評価や目標の達成状況の確認を行い、必要に応じて見直しを行っている。また、生活状況の記録や会議での意見交換により、現状に即した介護計画の作成に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌は、ひとめで利用者ひとりひとりの1日のケア状況、食事量などの生活状況がわかるよう工夫している。また、個別ケースファイルには、業務日誌には記入できない詳細な内容を記載している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	運転できないご家族が面会希望している時には、事業所がご家族の自宅まで迎えに行き、面会の往復送迎を実施している。		

[千葉県] グループホーム 希望の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者にとって楽しみである面会や外出が気軽に実施できるよう制限を設けていない。ご家族や、通りすがりの友人や遠い親戚が突発的に来られても面会可能としている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からの主治医との関係性の継続を送迎付き添いサービスをすることで図っている。また、訪問看護ステーションが主治医と事業所の間に入って調整役をしている。	協力病院以外にも、希望する医療機関への受診が可能となっている。必要に応じて職員による病院への付き添い支援も行われている。協力病院を設置しており、24時間体制で対応が可能となっており、急変時・緊急時の協力体制が構築されている。毎週訪問看護が実施されており、適切な健康管理が行われている。また、訪問看護ステーションを介し、医師と連携を図ると共に、医療面での相談・助言を受ける等、医療面・健康管理における手厚い協力体制が築かれている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	夜間の対応においても、看護師に助言を頂いている。看護師には受診時の医師の意見や利用者の状態を定期的に報告。看護師は必要時は医療的処置を実施したり、考えられる心身状態の変化の可能性等の助言を介護職員に実施。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期受診や救急受診に、職員も診察に同席し主治医との良好な関係作りに努めている。入院時は、病院の主治医や看護部長等と密に連絡をとりスムーズな退院につなげている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に、重度化対応の指針について管理者が利用者及びご家族に説明し、同意、署名頂いている。また、重度化した場合は、主治医や訪問看護ステーションはもちろん、他法人の訪問入浴や福祉用具専門員とも連携を図っている。	重度化及び終末期に向けた施設の指針が作成されており、入居時に家族の同意を得ている。終末期においては、家族・医療機関・職員にて話し合いを行い、本人・家族の意向に沿った支援が行えるよう体制を整えている。	入居者の身体状況の変化や重度化により、入浴等が困難になるケースを見据えており、施設で検討が行われている。外部サービスや社会資源を活用し、入居者のニーズに応えるサービスの実現に向け、今後も検討を重ねて頂く事を期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	開設以来、毎年、地元の消防署から救急隊員を招いて、人形を使った実践的な救命講習をして頂いている。		

[千葉県] グループホーム 希望の里

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間想定1回を含め年に3回、防災避難訓練を実施。年1回は消防署員の立会いのもと、訓練を実施し実践的な助言を頂いている。管理者が地元の消防団員であり、希望の里について消防団に説明している。	緊急時・災害時のマニュアルや役割分担等が整備されていると共に、施設内はオール電化となっており、火災予防対策がなされている。隣接する同法人のケアハウスと合同で、年3回消防避難訓練を実施している。管理者が地域の消防団に加入しており、地域との協力体制も構築されている。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は、人生の先輩に対して適切な言葉かけに努めている。利用者一人一人のプライドを傷つけないよう配慮した言い回しをしている。	個人ファイルにおいては、所定の場所に管理し、個人情報の保護に努めている。また、個人情報保護についての研修を実施し、職員全員が制度や重要性を理解している。接遇においては、入居者に対し丁寧で自己決定を促す言葉掛けや入居者に寄り添う介護の実践を心掛けており、その人らしい生活を支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食べ物や、その日の入浴に関する事、外出への参加の有無など、日常会話の中でさりげなく入居者に希望を伺うことで、利用者主体の生活に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ケアが画一的集団的にならないように気をつけ、食事やおやつ、入浴、昼寝など、一人一人のペースを尊重している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の整髪、洗顔から、外出時の洋服まで本人の意見を伺いながら支援している。		

[千葉県] グループホーム 希望の里

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の好みを考慮した食事を提供。その方が嫌いなものは提供しないよう努めている。可能な利用者には、自分の食器や隣の方の食器の片付けをして頂いている。	入居者の希望や能力に応じて、準備や片付け等、共同で行っている。献立は同法人の運営するケアハウスの栄養士により作成されており、栄養バランスに配慮されていると共に、個人の希望が取り入れられ、嗜好や能力にあった食事が提供されている。また、外食会の実施や四季折々の行事食の提供等、食に対する楽しみを支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人専属の管理栄養士が考案した栄養バランスの良い食事を提供。やわらかめの食事にするなど、その人に合った食事形態を提供している。食事量がすぐわかるよう日誌を工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後には、一人一人ゆっくりと口腔ケアを実施している。就寝前には、必要な方にはポリデントにて入れ歯洗浄を実施。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ポータブルトイレの設置や、定期的なトイレ誘導をすることで、できるかぎりトイレでの排泄をして頂ける様努めている。定時のトイレ誘導、パット交換をすることで清潔保持に努めている。	排泄チェックリストを活用しながら個々の排泄パターンを把握しており、適切な声掛け・誘導により、なるべくオムツやパットを減らすよう工夫している。夜間においては、トイレ誘導やポータブルトイレの使用により、適切な排泄支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取不足気味の方には、夜間においても摂取できる様に配慮している。足浴を行う事で体の冷えや便秘予防に努めている。便秘予防にリビングで座位保持して頂けるよう努めている。		

[千葉県] グループホーム 希望の里

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者一人一人に対して入浴時間や曜日を定めることはせず、その日その日に声かけをして希望された場合に入浴して頂いている。	毎日入浴が実施されており、希望に応じて、回数等柔軟に支援している。入浴ができない場合は清拭や岩盤浴効果のあるフットマッサージ機を使用し、清潔の保持や血行促進も図っている。入浴拒否については無理強いはせず、言葉がけや入浴時間を変更するなど工夫し対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間時も、その方の状況を把握し時には話を傾聴する等し安心して眠れる様な環境を整えている。お昼寝を希望された場合は、短時間でも昼寝できるよう支援。夜間、眠れない方には、自然に眠くなるまで無理強いしないでお対応。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の症状の変化を見ながら状態に合った服薬をして頂くため訪問看護師や医師と相談し処方して頂いている。錠剤が飲みにくい方に対して、散剤で処方して頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	外出行事、学生との交流会、法人内での納涼会、敬老会、忘年会、クリスマス会、足浴、岩盤浴、マッサージなど楽しみごと、気分転換の支援をしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節を感じることでできる外出行事を定期的実施している。ご家族との外出も制限を設けないので、気軽にご家族の送迎付き添いで実施している。	入居者の希望や天候に応じて、散歩や買い物等が日常的に行われている。定期的に外出会や外食会が企画されており、様々な戸外活動が実施されている。また、ドライブを兼ねて近隣の馴染みの場所に出かける等、少人数・個別対応が行われている。地域のグループホームを訪問する等、外部との交流が行われている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	可能な方には、お金を所持したり使えるように支援している。		

[千葉県] グループホーム 希望の里

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族から電話があった際には、本人に受話器をお渡しして、会話して頂ける様支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の共同作品や隣接施設入居者の作品を玄関、リビングに展示。小学生の手作りの作品も展示。	施設内はバリアフリーとなっており、十分な介助スペースが確保され、入居者の安全面に配慮した造りとなっている。木の温もりを感じられる設計となっていると共に、施設内に音楽を流し、入居者が穏やかに過ごせるよう工夫している。リビングには、ソファやテーブル等が設置されており、入居者が思い思いにくつろぐ事が可能となっている。また、施設各所に季節に合わせた飾りや入居者・地域住民・ボランティアの作品が展示され、明るく楽しい施設作りがなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ウッドテラス側の窓付近にソファを設け、一人で過ごす居場所を作っている。玄関が暖かい夏は、玄関に用意した椅子に腰掛けて頂き、ゆっくり外を眺めながらひとりの時間を過ごして頂く。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの家具、本人の作品、家族の写真等を持参。手作りの作品やこころのなごむ置き物が居室にある。	入居者の希望により使い慣れた物を持ち込むことが可能であり、居心地がよく生活できる居室作りがなされている。各居室にはエアコンが設置しており、職員により、適切な空調管理が行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内は玄関も含めて段差が全くないので、歩行器や車イスでもスムーズに移動できる。夜間は足元の照明使用。トイレは三ヶ所に分散し、プライバシーを守っている。		